

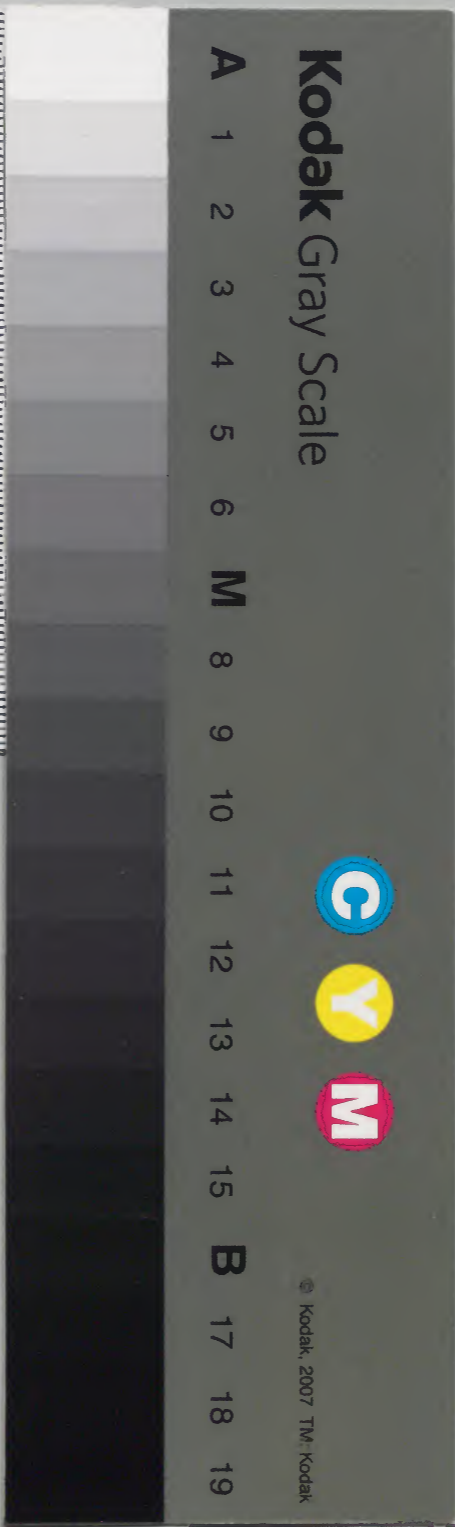
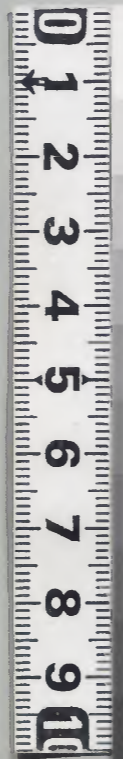
調布日記

下

和書門			
三六四三〇	三	架	冊
一二九	一	函	號
類			

和書			
三六四三〇	三	架	冊
一二九	一	函	號
類			

内閣文庫	
番號	和 36430
冊數	3 (2)
函號	177 1032



納言書院よりけし祖師の画像古きものなるを傳ふは

市繪像元祖以市直筆奉圖之者也山田原谷津村

光秀山淨承寺住常とあり板刻のやうなるものありやとありて

祖師堂此方に敷のありきり住持信長奉圖

祖師堂より遠みありし厨子とありき斗檜式

楯ぐりも古色ありて玉眼ありやかにありしあり

此名とありし新く改めしと傳ひしとありし

此長とありしに凡えありしづくの光景とあり

ありてく拜するといふもすありしとありて

しせありし母ありしとありし吾祖父道壽のみ

五

自得とありしは筆蹟ありしとありし祖師の示現

ありしとありしは筆蹟ありしとありし祖師の示現

ありしとありしは筆蹟ありしとありし祖師の示現

ありしとありしは筆蹟ありしとありし祖師の示現

ありしとありしは筆蹟ありしとありし祖師の示現

ありしとありしは筆蹟ありしとありし祖師の示現

ありしとありしは筆蹟ありしとありし祖師の示現

ありしとありしは筆蹟ありしとありし祖師の示現

ありしとありしは筆蹟ありしとありし祖師の示現

ありしとありしは筆蹟ありしとありし祖師の示現

老村し五十九年... せぬ... あり...
と... び... 華甲... あり...
と... 川の... 官... 駕... あり...
と... 川の... 例... あり...

○十日... あり... 八幡... あり...
村... あり... 矢... あり...
と... あり... あり...
等... あり... あり...
村... あり... あり...
と... あり... あり...

○ナ... あり... あり...
官... あり... あり...
と... あり... あり...
和... あり... あり...
と... あり... あり...
と... あり... あり...

と... あり... あり...
と... あり... あり...
と... あり... あり...
と... あり... あり...
と... あり... あり...
と... あり... あり...
と... あり... あり...

押立
巻八
八幡

了那の掛幅とむくむとまきくく足は替りあり
 千里外北野一板梅那徳の曾末看古往今来花園
 赤流紹也拜賛とあるものごと野村産文^辰拾地
 了那の村の天那のよめた陸地一石或本を中河
 云山河ハ是政村の河あるありとあすうあるさあしき
 十二日物くまうして是少雨をうぐ候りてその
 あり是政村のやまうとあしきく中河を村
 ころこひよ各保村中宿村をまきく空宿村宿りて
 空宿のいり地村宿ありとて中那村のりる大なる板
 ありく是那村宿ありたのりなる中那久^中

小名宿在神田
中那村宿あり
 のりまうりて中那村れ家家なりてすく
 小名子のきくく山宿布の敷とひきく坂下の長服
 あきあきあきの家きくく山宿にきく徳礼の
 四字の額あり蕉聖書 家居ひろくすまうりて庭の立
 るえとらあり大那村を居て拜島めやうりて
 里心島田其あるありて宿ありむつすく四百とや
 中那宿あり四りハ甲子ありては甲子の程ありて
 宿りてとく禳禱とく宿ありてありき

○十二日終り雨降りぬれむ月夜降りてあり

中神村
能野権現

軍部
二高村八郎
川村ノを
少田村係
村一

高良の大佛を瑞子をのひし村の縁をともてりや
しはお村より山をまわり坂をまわると畑をゆき
やうらみの村をいしうらむ舟に渡り平千舟といふ
農夫あり古きち物ありやと問ふばかといふお意
あはれ古き平通と云ふれと先のうある人かて久し
かこころいしやうらむ舟といふかを御し
あはれいし平通物師の傍りまゝ決氏といふ備前
事といふは先年の火災の失ひといふは後やうこれ
まのあつりんしもの家の縁を 卯まきうらむのいふ
とて平島村の者へ追てこすといふ
いしで實に西暦七年この宮の鏡清 附推名を存 御
しは瑞子といふ一通といふといふ書のさぬいし

其のまのとも 他二の旨といふおいづれの
おまうりしとら

下は七通 推名を存
右係

あはれお方お方と御しあはれと
おまの御しあはれと
たしお方と御しあはれと
あはれお方と御しあはれと
おまの御しあはれと

おまの御しあはれと
おまの御しあはれと

作五州

方作
旧カ

門
去
文
多

年一は流る、湯由所、
少者了も中切了法外、
うれりも中切了法外、
さうりも中切了法外、
西代友も中切了法外、
若名也も中切了法外、
前も中切了法外、
うれりも中切了法外、

卯月

五

越川村の石を幸ふ、家々の古文書ありとて
里人の間をたれ、中、家の向よりとて
お、海りか、石を耕作、山々居、以、お、
洋島村のや、石を、携、来、水、

制札

右村福生、
豊、
横合、
上、

二月六日

布、

判

北條

豊
正
中
内
野
首
中
庫
中

裏書

氏照孝印

次多奈山

城主 画ハ

天正十二年

ナリ 福生

ハ 福生

村 福生

吉 福生

カ 福生

信 福生

也 福生

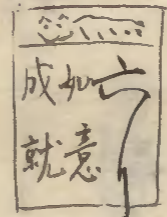
制札

右お福生ハ當方軍勢

甲乙人あり可なり

指藉着遠替を討

換ち也内お件



二通もんに入るうて古きものし拜島村々玉水禪窟
と額かけし寺あり宿のま 甚ななりこと玉遊山龍
津寺 詳多あり 額清人 錢唐周堂の書ありといふ

北殿司の大意の画七軸 若菜の達磨の画ハ本菴の贄

一軸ハ付寺れ付室ありとてあり かりぬくん

○すゑ日天氣し 拜島のやどをとりて用水のたをえて

七橋をとりて少川村はいつる 地を村々通れぬ ち々熊野

村のああで森田依在馬のまよいつる 地を村々通れぬ ち々熊野

指那の 地を村々通れぬ 甲陽まつく 古き家ありて信雅

院大僧正 信雅 の比の日記ありとてありけむる

まゝつめまいつれぬを失ひてとてをなすといふも

只か門色の海形は家鴨の多くむれぬものといふ

板をりて少海をのりていふ

洋島

やうく山の頂上より水でこぼれ下りて金毘羅大権
現の社あり東社曰く極多し山と名づきて臥山と
云十のの極多しとある人ありと云りやも十
あるの目みれむ葉々しきものあり岩のぞきく大
かた松すまあり世社のまゝん楚しやんそら
お玉川の流し一匹の練絹とひくごとく秋川の流
おちあひくふく遠く御村の方までとありひ
拜島村の方のふかきえく用おのほしうまむし
がくそら人まの蛾のこころう四方の山をかすま
めく目おあふかわりうらまをいふとらびらめ

むつきせうは登る村りの月ふら一阪山いもまき
きりやう社のあふる板あやうあく屋の胸ともの
しつきのたつしひちく桃の花や送けり
昔あひの年うあふる百き井あり井の中とる
しつきのたつしひちく桃の花や送けり
甚ふあうとまいづるも山と谷とつまて場のあは
いあつきああり中丹本村とるを谷野村の農者たに
いしつきのたつしひちく桃の花や送けり
秀く桑多し中野村のうち勅を備田氏う家や
あぬる正月あひまを向くし一西に拜島村の人あり

巖山
秋川
北平氏輝城跡
山本助脚書

古文書をよみ紙の杉葉のこしく可きもの

名高院文(さき)

一 浄年拾口宗師長了様

内病氣私心長生侍り奉

為す所乃沙塵美ト

山本氏正に先より格別

師有奉候所

天正貳

山本勘先(印)

后し吉祥

裏書

信(黒)印

前書と通し如件

甲斐(信)玄

これに申す花村の農家系とありありの持てこ山
中勘介の(まこと) 醫者なる者字とありありの(まこと)
いふ文の(まこと) 古拙とて一矢(まこと) 一
十(まこと) 風(まこと) 一(まこと) 一(まこと) 一(まこと) 一(まこと)
の(まこと) 目(まこと) 一(まこと) 一(まこと) 一(まこと) 一(まこと) 一(まこと)
一(まこと) 一(まこと) 一(まこと) 一(まこと) 一(まこと) 一(まこと) 一(まこと) 一(まこと)
一(まこと) 一(まこと) 一(まこと) 一(まこと) 一(まこと) 一(まこと) 一(まこと) 一(まこと)
社あり別当の寺あり(まこと) 一(まこと) 一(まこと) 一(まこと) 一(まこと) 一(まこと) 一(まこと) 一(まこと)

多賀の神

元ハ五子の山云々河を遠く云々山佛峰あり
その河をくく云々山り尾山云々尾山と云く
この山ハお換れ者根山と云云々治坊村のつ云々
く川原のものをとんく千人所云々樹園の所人云々
船を好み去年の暮つ云々樹も亦しもの云々庭云々
士の云々ち云々あ云々け云々の山云々出云々
り信松院云々の寺ハ信松院云々信の女子の尼と
なりあ云々を葬れる寺云々室お多し云々きけむ丸を
重目とてゆきとて云々信持とて云々軍船の雛形と

彩云々の云々に云々あり云々白云々
旗云々の云々紋云々あり云々船云々の云々雛云々
て松植の窓云々開云々多云々あり云々工云々と云々せ云々もの云々あり云々次云々の云々船
も又同云々し云々ゆき云々所云々を云々あ云々く云々く云々袖云々籠云々と云々松云々植云々を云々あ云々り
しものち云々ぐる云々の云々つ云々き云々旗云々と云々帳云々四云々菱云々の云々紋云々を云々あ云々り
付云々く云々ら云々れ云々と云々徳云々四云々年云々納云々め云々し云々し云々し云々軍云々船云々の云々記云々あり云々
又信松院殿のめ云々あり云々梳云々あり云々葵云々の云々旗云々の云々前云々繪
あり云々し云々牡丹云々の云々花云々を云々換云々張云々あり云々牡丹云々の云々花云々を云々換云々張云々あり云々牡丹云々の云々花云々を云々換云々張云々あり云々
しが先云々つ云々く云々又

神君の御書とらひ侍つ云々し云々あ云々つ云々通云々信松院

大僧正の書一通 伊勢物語すゝ川の 信松院友の書一通
伊勢物語すゝ川の 信松院友の書一通
伊勢物語すゝ川の 信松院友の書一通
伊勢物語すゝ川の 信松院友の書一通

勝頼

信盛 油川殿

女子

女子

女子

女子

油川殿 後与信盛同殿也字阿松名
人鳴信信松院殿及乃尾孫信松院
北條氏改室
迎武城生乃千代九諱信吉

後の山は信松院友の墓ありその玉垣より人回りの

いとそとを姓名ありてありけり寺をいへり小本宿

八幡宿 八百市宿 横山宿 野原宿 小本宿

尾上芭蕉庵 尾上芭蕉庵 上下乃大お田の産地

尾上芭蕉庵 尾上芭蕉庵 上下乃大お田の産地

○十七日 船より来るがやりにて信松院友の墓ありて提を

足り上田村よりぬを延命寺あり梅柳の枝よりしと

遠く空むむすゝ ことな川川のあるはるありし原き
 潤とありて地原市の潤とありし原き
 里正の方市を満くことな川川のあるはるありし原き

延命寺
 日割

あれどもよめは怪しと云駄の中ふ牛にまあると
普門寺といふ寺あり西百年まうりのるあれと何も
あしとあうとのお程とありと産屋集つる家も古文あり
北條院奥丹氏輝の山判物

お當の竹末切徳と信止年端も哉
一切ぬた切ちまうし付るも後程た
そし自下と題名は作と書こ何れ

件 朱下

丙戌 二月九日

日神想つて

日神里正
春多力云
立川八景
法持ノリ
東光寺云
今アリ谷
ト云ホマ
町屋下
村ノ一

四野地名
孫芝崎村
付北立川
三川青去浦
古城辺の首
瀬高と云

北条氏忠書

又一通の世状あり

孫あるは名取被改美と云百歩初とありと
書物持事ありを所同中と云判つる未産集書
判別し由沙を據志と云産城又年まうり
おくち物と由奥之人と名と角年被改改書

立川院東光寺

堺ヨリ 谷町屋と

平野と云

福持と云

竹中か智入と云

日野里正云
此五子色
おろく寺ノ
りしト云
竹間氏ノ
百姓ニ日野
中ノ中ニアリ

酒徳志道と云ふ山藤屋家の中將有と人
る所を此山知りて夜に往宿村と
相早寺に追言候。明自有り由竹方初夜入候
子に志をて中候と申す。此物に候はし山候と云
此物に候はし山候と云

己ノ十二月十日

追言 照長付ものみ候。時分山候と云ふ山同番
海想の根山痛ふがし。相山候と云ふ山
時分山候と云ふ山候と云

玄ノ山ノ山
十二ノ山ノ山

中村市係

竹間氏ノ山

り候

自願野

中村市係の申別の上の山。産するの山。産する書
画と好して長谷の雲谷の馬の画を山候と云ふ
室永二年又大島寺の山候と云ふ山候と云ふ山候

○十八日雨あれを同日やと云ふ山候と云ふ山候

○十九日雨あれを同日やと云ふ山候と云ふ山候
及ら申す。山候と云ふ山候と云ふ山候と云ふ山候
山候と云ふ山候と云ふ山候と云ふ山候と云ふ山候

三備村の
隣村あり
平村とい
異なり

軒のありのまは後とこれと成別多摩郡東光寺村
萬照山成就院とありて延享年中のもの天台
多光寺ありといふ所は能中つれまじき名を
ういひ古戦場のありといふ古戦場ありと
ほいせしありといふ里人問ふるまじき
一粟浦村の地とて川河れ橋といふ日種
中つものまじきといふ川河の水をすまじきたの方れ
小種といふ平村の畠とありといふ小種橋といふあり
此名組のものといふ十八年
神名入國の時小田より城より川越の城のこた

わうひめありといふといふといふといふ
せりまより伊弉通家の冷海といふ主人の傳はるまじき
かつ平村評士の地といひ法後免除の書といふ寛永
十二年十二月廿七日家より出ありて
書ありといひといふといふ二十二年より平村の地は百
といふといふといふといふ
神名のり七年忘の時より屋より一社を建てる村の地
守といふといふといふといふといふといふ
明和七年寅七月廿九日の火災より失ひて何れも傳は
すといふといふ法後免のよりといふ

成瀬院
成瀬院
成瀬院

ある居屋敷の地なり。今も持傳つてゐる。日先伊社系
のり去年勅免所中
船後宮を修
せしむるあり

在社社の廟を祀りて、
弘武通事の大鏡として金のあがやうな年一との
四月廿七日の廟跡ひききて人ともありしむ

とらん河原宿ひき紫原村の方向申く幸夫の花れ
おとさうりありしも浅起り時の奇夷花飛若花飛

とのり暮暮故山の草堂かつみの坊とくら備して
園中の杏花忘りて迷作りてあらんともう坂とて

あつあつ入きては幡まある及のきれ地を堂に
落草談よしく額あるいふ故も此村の里正地

多うまにやむぬ此やどの垣根よむせきつおる山車あり
○たの氣今も此屋ありしをよかめんと同
やうしうりありしやとまよる此地常濟寺あり

と前れる碑二三四天の形をさすはまのりて此所の里
正年九ありありは此中を修りてありありし

られは村の臨時小橋の宿起とて古きものあり
しめは神宮のあや信濃とありし

略縁起

抑尚社八幡宮弘法大師の所傳とて五年の显験

著るなりありありしも昔花火つてありし社

中野八幡宮

一
拜殿のくし焼失し御の世々像の何のあはれなり
去のひぬ其帝の顔なき川宮内なる方是と欲き
別の尊像を譲く是とある事一^〆所は宝永年中
本社拜殿造立を以て後境内れ松の古根より老成
と為し一是をふ志後と思ひぬ其凡のあはれなり
尊像のましまし事とあるはらの松の根を切ら
の又先尊像の御胸のあはれ目圍氣盛なりとのん
くはれを以て急尊像をば本社へ移しすなり其
者もあはれとてきびしく一これぞ中氣ありと事
と事甚あはれのみ信をたらし一ぬを胸の痕今も胸の

あはれ又其後年成程く盜賊のくはれ神事のあはれなり
月一日鳥集り何と一難一おに入船妻のとき^{おん}
社のくはれ老成なりやと事一流人ふれを以て
くはれ其の南社なる事諸を以て拜殿のあはれを以て
奇異れあはれなり一ぬ又一今年六月十日のお賊雖
まのひれ何の何の邪を以て社を以て知事とら月
十日の通の初官立集り一百姓の祈禱を以て抽丹
液を瑞きや有らん^〆是れ後先四日ほどして^〆
の細く一由るも像の足くをせぬらず中を月末の八日
ふ湯の冠をきけ一お神純白遠くびあはれなりと事

氏子ともいふを收び日毎に武蔵野にふるかきりきく
年々ともいふ御座るをせむらふは八月十日の夜
昔年の如く神光かきくして白昼まらとありし
人々甚あやしくおそむるのあき中社の敷地若の
とま候ふとていふせあり夜々の星驗那有骨髄の
徹しては夜に今日の官同座りて一為活縁を拜せ
され各書五年丙申二十一年あまのむら一麻を穿し時れ縁起
とてきかへしとありては村の星正平九節りり
又神皇の事も傳へり

遺訓

昔ヨリ代々家傳り御長四寸八分黄金の陀院如來
尊像弘法大師ノ御作ニテ七代以前ノ祖式部不淨
ナル居宅ニ安置と奉りテ氣ノ毒ニ存
八幡宮ノ本社ニ遷シ納レ奉リキ時ニ盜賊偷ミ出シ
値ヒニ代替ヘフレヨリ段々値ヒテ増シ數多ク人ノ手ニ
賣渡シ相摸別星谷村ニテ有レ寺僧買取り客殿ノ
本尊トナス然ルニ其夜ヨリ殿中震動雷電ニテ物
珍ニキリ無限夜々重テ云計リ無シ寺僧尤ニ
驚キ諸モ々恐レシキリ哉此佛像ノ在ス故ニヤト
早ク買取り候方へ返スワレヨリ奇異ナル一尺有テ

何方ニテモ雷置下ヲ不得向キニ買取候方ニ返
偷ニ出セシ者ノ年ニ渡ス此者詮方無クヤ思ヒケルハ
幡宮ノ社壇ニ是ヲ捨置ノ依之清水ニテ尊像ヲ沐
浴シ奉リ如前本社ニ安置シ奉リ又歿后五代以前ノ
祖主計代武藏野ヨリ野火來テ本社拜殿悉ク焼
却ス是天正年中ノ也昔ヨリ神主居屋及程隔
リ住居致シ候故ニ急キ馳着候ニ最初燭壯ニ炎上リ
致方モ無ク空ニク目前ニ一時ノ煙ニ成又此時彼佛
像如何ナラセ給フト灰ヲ多ク尋ズル見ハ不給ソシ
ヨリ三年ヲ経テ神前ノ神枯シ候故植替トスル

時鋤ノ又ニ物ノ當ル下有リ石ヤラニトエテ穿テ見ルニ
彼尊像也於是信心強ク肝ニ銘シ清水ヲ以テ尊
像ヲ沐シ其後ハ火盜ノ難ヲ恐レ不淨ナレニ神主
宅ニ安置ス勿体ナクモ鋤ノ痕御胸御キニ在リ

覚書

黄金ノ阿弥陀如来ハ幡宮本社ニ安置有之処安永
五年申六月十一日夜賊難ニ逢給又并五十嵐氏奉
納之刀盜取ラシ大ニ驚祠宮同門相頼百座ノ祈禱
ヲ勤ム四五日ヲ経テ臺座後光ハ畑ヨリ出ツ氏子共
ソコ、尋ルトイハ見ハ五ハズ然ルニ八月四日ノ夜光ル

甚し五日ノ朝本社ノ賽銭箱ノ上ニ歸ラセ給フ依之
祭日十五日ヨリニケ日ノ間開扉イタス誠ニ不思議成
御事也厥后賊難ヲ恐レ勿体ナクモ住所神壇ニ安
置致ス者也

皆安永五丙申年記之 神主 官本信濃

八幡宮の降地ニ石九年ニ升アリトキク序リテ立
以テ多摩のものとシ神多事多由氏ヨリ像ニ仰と具
多水ヲを拜する事其倉の像ハ古き事古き事
ナリト云フ方ハ向テこの如クナリ 其倉の如き古
く彌々喜きやうに之ハ後光の頃の事ナリ

白依の所
胸に海を
おきし
はあり

武多磨郡立河郷芝崎村
八幡宮 鏡一面為家内安全
五十嵐与八郎

元文四年己未八月

かくの如く鑄と云ふ立川氏の降像ハ鉄と云ふ
其皆子

白依の藤
の紋玉
川氏の紋

武列多東郡立河郷芝崎
村八幡木地并貞願主立河
官内右衛門

本願大夫式部

于明天正拾四卯年三月十五日

大工推名土佐守

とあり又此命を雨う定のうらうらあううて強務大
明神の社ありこれ又村の鎮守うて神皇宮本氏の
おあり強務社殿あるに斗あり弘仁二年の御詔し
とらひ傳りあるのまうして古物ありと神をうて
今の普濟寺の人ほらうて名を平九年の御詔し
尋か何れともちうてうらうらあり

開山大定禪師示寂

貞治二癸卯歲十二月初八日

今到文化五戊辰年迄

四百四拾六年 侍真誌

宗山の像古きものことよ四神地名録より中ノ古
文政の尾の記ありとてごまのりときうに志うん
中ノ古氏此農家か多うていり

○サノヤ所々風景を芝野村のふらうとて万載

寺よりうらうらうら荒えてうらうら中堂の匾額より

正徳元年申仲秋

先

山

普濟寺
萬載寺

輪住業實第十二代
當山中興別峰見書

とらふかこの廊の女ふれしうあな聯とせうけあさう
新産悲深大地方地を返葉抄
孝忠垢淨遍法界慈是瑞鏡

亮好
佛國ナラシ

仲國言泉
多題

又かこの孝佛あり華師佛とや聖徒左子の像あり
又匾額あり醫王山南岳帳山とあり瑞樹と
いしと詔をさるん享保の年号あすうに有隆平和尙
のまじり宿とまきとあせりありしとらふれどさうさるん

除地もさあふさうしもあゆを一衣一袖村楸の傍のよき
すわさうらふさきと今らとを伝ありしとらふ楸とともあり
いささきこのみ神とあわの具ありしとらふハ幡とあり
高居よれと楸と竹と志の備とをけとをさる楸と新
ま極とさうとらふかの神とれ家と傳と一送洲のうら
とらふ楸とさうとらふや中社物敷かこのみ神とあす
とらふ細とらふとらふとらふとらふ宿のうらとらふ
あり強信の神の社ますのたのさうとらふあゆのあゆ
しげきを弘仁二年よあゆとらふとらふむとらふとらふ
芝傍村と出く喜柳村とありとらふの谷傍村とあり

谷月とらるる夏山編ありたの方にも表あり奉納五智
如來五橋車輪制と云れり石橋と云々してたまのあり
ふも親多き要す谷保山安養禪寺と云へる表を
其藤乃の方に柳光山松島西院安樂寺あり血文阿
弥陀如來法華上人御化と云ふ表と云へり板をとりし
て中谷保村の里に孫と云ふが家ありこひ世里正と繁
内とてて海島の社といふ所を名居と云へり
と云へりゆきて天満宮といふ所の名は山形地帯
あり神社のたは清き流ありと云ふ辨財天の少御あり
この所をたはありと云へり口と云へりて舞殿と云へりは安樂寺

傳の文書ありと云ふありて是なり
少の男道成君の所化と云へり妙あり
賜と云ふ古き拍犬二体ありたの方れ一俵の玉眼一
盗ありと云へりと云へりありてありてあり

研ハ額ハ葉
研ホリシ

後宇多院の御宇ゆれり天満宮の額あり重書
建治元年紀六月廿六日丑書之 正三位藤原朝
臣經朝と云ふ又出づる門先園の所を網と云へり
了海島の額のうへあり重書

此額ハ
額ホリシ

謹為

武江御額林眉毛軒

水戸宰相公

河楚門入敬彫

谷保天神

少将公

菊千代公

御祈禱寄進之伏冀

三公武運長久萬福無疆

元禄三年六月戊辰九日

西村五郎衛門

彫り社をあり里正の... 中宿村より丸の方の... 観世音の像を... 碑の字ハ...

津戸勅解由左衛

延文五年七月十日 子冠死去 沙弥道继 門尉菅原規继

右の方の小徑に入りて畑中をゆく... 農事よとくむミクケ場とあり... 中宿村の中... 山あり... 別家...

彌勒寺

○久米川よりあるところへ久保と年ノ碑の石塔あり久保各れ
平氏の少野高層碑の文を移して有りて塔。

○廿二日陰晴すこすこ日候をいふに己の所ある
やとうとあしく中尾村に谷村の用水をそとく上谷保村の
境を見舟をくむりふのきくはつりり石田村の農家
集太^{まふ氏}うめやうき星の胸をくふあふの醫者
よりいへ骨橋の業をそとく多智あふのそとく
よりあすあふりり山出に吉田蘭者の画すして三月
多とりの額ハ陰陽道の書あり水車ありたをそとく
上尾川村の星正よあふりり家ありこくあふりり古文書

あり

禁制

- 一 軍勢甲乙人等遊妨根積半
- 一 放火事
- 一 跡地中人百姓水白く候中毎半
有る限令停山迄若お建候
者者速可被處處科者也

天正十八年五月日 信濃川

左の所朱下ありしを移してあり又系高あり

信濃川あり又書

武島玉島あ都内
おち川に村

朝倉氏より表来親王と稱す人 畧書

景高 右衛門少将 右衛門尉
正徳九年 畧

阿君九 七歳 法名玉芳宗珍

愛王九 天正元年八月廿六日為信長生害四歳 法名花林宗春

女子 本願寺教如上人室

女子 為比丘尼 法名宗栄慈春

在重 朝倉少将 河内守

某 柱多傷

某 仕安部 貴林 定進 某 中刑

宣正 母末る石見守女 宣重 又宣行 室主井少少の利昌女

継室河井 瀬守守忠勝 入道堂印也

朝倉河内守在重といふ人の口物もあつてより口物を
河内といふはりもも 存もといふは河内村をよす河内と
いふはりももあつていふはりももあつていふはりももあつて
の相ありといふはりももあつていふはりももあつていふはりももあつて
相連寺といふはりももあつていふはりももあつていふはりももあつて
山石を曲りといふはりももあつていふはりももあつていふはりももあつて
あつていふはりももあつていふはりももあつていふはりももあつて

七十八代
三修院長寛
元至文化七已
六百四十七年

とらんりきまらふに僧ふけに布此瑞聖るより
とて身とまらふ僧出く宝お成り
洞像親世音厨子入
此七寸八分
佛舍利の少塔一基 三重
洞の洞角二合の洞角可あり大中洞小合の二あり
大方より方れ銘

長寛元年大歳十月十三日
美未

工匠藤原守道

大勸進聖人僧弁豪

结缘者 僧玄久

奉納 如法書寫

妙法蓮華經

僧定圓

僧陽久

僧定阿

僧竟尊

僧觀賢

僧定圓

僧

僧

僧

僧

僧弁意

其蓋の〜ん

駈仕僧薬西

大勸進所百草村

松連寺

又中の方

勸進

僧克尊

大檀主藤原氏(高貞判)

永萬元年九月十九日冬

又小の方

兼

鈞命

祈

平八代
二條院
元正酒至
巳巳六百四
十五年

日本幕下

一高別當

建久四年

松連寺

八月

修之

又古蹟あり雷斧あり古き陶器の香合ニッゞりあり
ソレも地中より掘出せしもの縁起の事願ふ
一紙あり

武州多摩郡百草村柳井山松連寺八幡宮者曠
昔源頼義義家奉詔追討奥州夷賊阿倍貞任宗
任時即穿山別男山八幡宮之社土盛石瓶來造



藤原
八十二代
後鳥羽院建久
四年丑至己巳
百十七年
雷斧

亮
重
二似

管官一字勸請于此所奉納願書專祈有功其後
兩將誅貞任虜宗任凶徒悉平凱歌至于茲拜謝
聖廟且將守護觀世音金銅之像一尊安置此地
永傳祭祀於無朽可謂社稷之臣也且兩將之軍
士各祈軍功奉納所帶之刀杖以謝神德矣尔來
鑄倉賴朝公恭敬之書寫法華經密金壺以奉納
之其金壺銘建久四年八月日受日本幕下鈞命
之文字粲然今存焉其所書寫之文字粲然今
尚存焉其所書寫之竹紙文字多朽敗僅殘在
矣而後歷星霜殿堂門廡悉破壞也茲件之寶

仁王塚
在寺前
松山也

物亦恐為賊失盡埋藏土窟之中無有知之者正
德年中於掛井山仁王塚下連夜自土中放光不
止住侶奇之穿土鑿塊而得石瓶及觀自在之像
并金壺一箇銅壺二箇朽壞刀又數十柄華四等
之數種則以為什寶矣爰我家君藤原苗裔從四
位侍從前執政大久保加賀守忠增之婦人後雍
治號壽昌院慈岳元長尼君常恭敬三寶敷修禪
道近贖得松連故地依旧號再建立之親請紫雲
山瑞聖寺之支院慈光北宗揮公和尚以為住持
於法有昆仲之誼約也享保六 丑年先造立七

間四面之客殿及方丈和尚自荷蕘運此下紙湖

又緣起一卷ありて、此に相承の家勸法の事と

記し、凱陣の肘改升井字竟為増威寄附五百名茶田

のりあり又天正辛巳實承壬申修復せしりあり

て迎年實文丙午も中管せしりあり主僧連理の

松を多きく此に山形持主今此代もありて源昌雄此のらありて

て再建せしりありて末に元禄十四年辛巳歲夏九月

良辰臨濟正宗三十五世龜光鑑自記元如之印とあり其

文甚冗ちたる實の證とすべき右件のりの事とす

従者のつらねんを忍びて畧して也

又持紙ありて筒の中を納くて後の朽損して綴れるを

はりしれば紙はありしもも建長二年の文ありて

としむ

敬白治磨金銅影像法体弥陀座光三尺六寸

奉為皇帝 日本主君 當國府君 地頭名主 御願圓滿

安穩泰平 信心法主 子孫平安 悉地成就 師長父母

二親巨魂 助成合力 同共往生 乃至法界 平等利益

建長二年 太歲庚戌 孟夏之天 七日壬子 南閻浮提

日本武州 多西吉富 真慈悲寺 施主源氏 願主佛子

慶松敬白

世中よつめ。経紙の折損して燻れらるるを悉くて服
すれど瘡病と治すと信のりくればふらめて敬礼せし
るもまあんと片紙とも以て家々致む文字の厚のり
に
又由らハ

明令

便言法第

此中我大

吾佛念

人之

哉阿莫捺伽

陀等

小名

あつたの月より日あつたあつた千載の奇物と
る不可思議といふべし切書の額と

享保二丁酉之初冬

松連

壽昌

禪寺

中具宗山

八十六年

明慧極書

明

開山宗の額ハ開山堂享保癸卯仲秋當寺開基意岳書
とありて慈岳の二字と年とありやうは是田とされ

赤呂院慈覚禪尼の書りつゝ 鐘梅よりして
後の色まゝくして古鐘の如し 祇をそむる厚保の
縁起のまゝ 厚保の如し再興の時ありて 治平の推名
赤衣寺とあり八幡宮の山の下にせりお殿の額あり
合地申して梅の縁を画き 厚保の再興九月廿八日藤原
忠英とありて大久保の如し印ありて山を
して眺望のまゝ 鐘梅の如し人のつれづれを
かゝり表すもの板をりてむしひの如し 山あり
松生ひの如しこれ縁起のまゝ 縁起の如し
仁王権にもそのたをたぐる 築島とてつれづれ
古村の里に

某の家やどりの掛物とてこれ清きやあり
其の日向縁常友

和歌

柱大酒公為為宗顯

と縁つゝもの此花の
梅の字つり ありて
きみは友かふをゆ乃
くくひを

○廿三日より清和の節あり 是もつれづれ
申の時よりして 此花のまゝやどりの如しありぬ

好風光の... 今より大九村の... 堀井と云ふ... 四谷村の... 靴... 一ツ六形... 伊勢因幡守貞... 大形... 武州多磨郡府中領四ツ屋村... 人王五拾... 三男新羅... 苗裔甲斐國八代郡市川

上道梅印... 生害市川... 堀井... 條家... 上ノ末也... 田

田

曹棟の記
村ト云々
アリ古ハ四家
ヲ得トセシ故
田舎ニテモ四
軒ヲ組合
居ニヤ今
地名ニ新保
大久保仁賀
保青木保
谷保ナド、
云ハ人家
凡所ノ名
ナルヤシ

内匠并々人ノ事来ハ外軒後居任ハ舟又口ノ包材ニ唱
ナリヤ、又定安寺ノ事ヲ建寺ノ事ハ本ハ滅却ナリ
といハル内匠ノ事ナリ代市川ニ在居ト云々ノ事ナリ
あり中河系河ノ事ナリト云々ト云々ト云々ト云々ト云々ト云々
といハルノ事ナリト云々ト云々ト云々ト云々ト云々ト云々ト云々
朝布の春一白ノ事ナリト云々ト云々ト云々ト云々ト云々ト云々
フリヤケト云々ト云々ト云々ト云々ト云々ト云々ト云々ト云々
賀谷氏ノ事ナリト云々ト云々ト云々ト云々ト云々ト云々ト云々
ト云々ト云々ト云々ト云々ト云々ト云々ト云々ト云々ト云々ト云々
隣ト云々ト云々ト云々ト云々ト云々ト云々ト云々ト云々ト云々

きつてありて、
御陣首集見書一冊ありて、
写せしものや、
今夜東長次手紙也

揚府、
謝紙名
がきく

佛依就使名封を切
ト也

義元

申
送り

留次修印

今ハ義元ノ事ナリ

將軍トハ
今川美之
ヲ云

連光寺村より山の方へついでたき春日大の神と稲荷
の少初ある北麓といふありてこれに廣き野ありて
玉川れりれと見えり一柳井の方より山の方へついで
る春ありち稲毛より八王子道と記せり赤坂といふ坂
との内よりゆくはる富原郡記録に申す云々

將軍藤が赤中ね赤松原に渡り年人富原修理
一手合組ノ甲別出張ヨリ切テ出少佛笹尾久米田八
王子ヨリ責入武別日野ヶ崎と切出分梅陸取才山田原
勢馬飼場之陸を赤坂ヶ谷佛道建籠と山田原公籠也

北麓
陸坂
舟
九官明神

阪屋監物深沢村赤荒川舟池馬士別高波多本上留
城守あり建公託多摩大川ノ官と城ヲ築之矢先テ連テ各
又云とらる赤坂ヶ谷といふ此馬飼場といふは白草
まきかきすといふ所右の方を尾をやく寛ありありと
て街船ヶ巻といふありやうありありこの山をさ
金川の海に取らるる山ありとゆひこひまき人かきそ
つげしる大尾村といふて是の狗す及のありとる坂言
くまきくもる居て里何の所もあまんと坂といふ
まきかき大尾村といふ鶴あり別高六大尾山勝園

寺として菩提流の程宗よりて菩提の仙谷山長福寺に
 属すといふ神の名を傳たるとして大九村ありて居り
 りとすといふもありて庭の志とて極極なりと云ふなり
 川をわたりて是政村所牛之町の程とて廣中の所
 いりる傳宿の里に美徳ありて來りて居りて

○世間天氣如暖しとてこれ風をたけは春とてあての
 と氣といふべし是のひよりやどりてありて國分あり
 せん田圃のありとも極あり倍もわつと極とて
 極ありたの方に居りて此烟代かたりて極といふ
 地あり

また古く合衆の後ありてありてありて
 村の乞食ありて其例に居りてありて
 龍佛とてありてたまたま所をある方よりて畑の中より
 ありて極の強りありてありてありてありてありてありて
 ニ王所に極の昔の程よりてありてありてありてありて
 中にはありて極のありてありてありてありてありてありて
 はら佛ありてありてありてありてありてありてありてありて
 天王護國之寺とありてありてありてありてありてありてありて
 のさくら堂ありてありてありてありてありてありてありてありて
 と云堂のありてありてありてありてありてありてありてありて
 宝永二ノ五月と彫れり服侍英雄先生の碑文阿保寺

のち一碑あり此は少林七文の石佛とて婦人
うま畧に平明和四年丁亥九月四日陳人園部正懋
出家号 **南條山人** 川名孟輝 字不修 後
季寛 高仲幹 字本固 とて此地
ありしるありしは甲條子のむらりされ
しらしられ松の林をこけりて川越のなるりて
窪村とてんと此村の平が先祖大団の名字のあり
ありれど一二月つてりて及のたす持系
ありまとの成安子川平なるも宛不意に窪村とて
光の山言きふる寺あり **武野山東福寺** 真言門の
一入に石の地ありむらりてりて板をのりしれど

宝篋印塔石あり例は徳岸とて三石積るを
花やむらりけり世ありる碑とて一先祖の平とて
とてありしるありしとてありしとてありしとて
少流とてりし世村の里に が家んしとてけり
しらしらに牛ひてまの女祠あり神あり松一石の松あり
一むらりのとてありしとてありしとてありしとて
小園街道ありとありしとて傾城と松とてまじり
ゆく畑あり畑ありとありしとて八層の女社あり傾城
の松ありと松ありとありしとてありしとてありしとて
ちしとてありしとて **島山重忠の松**ありとありしとて

東福寺
頃城
北園街
八條宮

道場
八條宮

又玄海寺のたき場畑といふ所ありまたのちに河
原坂といふありこの中まきふまきといふ所あり
河原の社ありその河原院佛ハひふありといふ
地名縁に松のあり一地古く云量山道城と云ふ
寺院のあり一と云ふといふたふありといふ
といふあり一と云ふといふたふありといふ
といふあり一と云ふといふたふありといふ
といふあり一と云ふといふたふありといふ
といふあり一と云ふといふたふありといふ
といふあり一と云ふといふたふありといふ

あんとまのそりま又自湯院南君のうり
古文書に家ありといふとたふあり

鎌倉二開堂

甲吉久 せうらくれ付かある

本南に名字有るむとさとの圃田とい

のこりり山に鯉うをとりつとらひかり地

若系らさんけこの地ハからんもんがせう二は

中まきんけあちつるたさう

永禄四年十一月廿日

けりある所を作さうつるまけの字あり今といふ

大田城

賈也
田子いふ西
ナルベリ鯉
ら不恋ケ
窪村ナルベ
戀窪村ノ
西板戸新
田ノ方大
田場ト云
アリ是ナ
ト里人ノ
説ナリ

日よしてていふて此地ありて古蹟の首とありて
原もあふていふてあんの村れ中ニ大田とて。名子の農家
ありて同くありていふて大田とて。いふて
ありて一里にたてありていふて海とていふて
布目ありていふていふての缺とていふて。嘉永二年
いふていふていふていふていふていふて十八所
いふていふていふていふていふていふていふて
いふていふていふていふていふていふていふて
いふていふていふていふていふていふていふて

○廿七日晴てさういふていふていふていふていふて
諸海山称名寺とていふていふていふていふていふて

おん堂のたの畑より古きまゝの碑をいふていふて
あり徳河孫親氏君の碑ありていふていふていふて
いふていふていふていふていふていふていふて
いふていふていふていふていふていふていふて

應永一四月廿日

梵字 德河孫親氏

世良田氏

徳といふていふていふていふていふていふていふて
いふていふていふていふていふていふていふて
いふていふていふていふていふていふていふて
いふていふていふていふていふていふていふて

称名寺 六所宮

神のまじりてゝある居の月のなほ柳の松屋社あり堂の
たゞ 津宮ありたゞ銅佛あり 重忠の建立ありて此が
産村ありしとて云々 石碑ありて胸を刻つて
記すとすれどさうらにさへりし

大勸進念阿弥院佛明道大工藤原助近
□□□□二親并□□□□乃□□□
□□□□□□□□一丈二尺佛身也

建長五年□□二月十八日 丙辰彼岸初日

とてかすらにむ武野遊草 清瘦 記せし文字を以て
くやうしよとてしるす 藤原氏 とあつたに由
藤原氏 藤原氏

切社のあるところ 標今を以てしるす 鶴ありてむらり
ありしとてしるす 昔とてありしとて 古昔より
ありしとてしるす ありて買ぬとてしるす 鶴の舎を以て
すむもありし 一の名居までありしとてしるす 左に依
りて久遠の年 慶長年中よりありしとてしるす 八幡宮とてしるす
は因知ありしとてしるす 右に八幡宮ありた久村とてしるす
たゞ常久寺ありしとてしるす 久村とてしるす 人の開基ありしと
てしるす ありしとてしるす ありしとてしるす ありしとてしるす
僧ありしとてしるす 夜中ありしとてしるす 新女の言
ありしとてしるす 深谷村車返村ありしとてしるす 山ありしとてしるす

八幡宮 常久寺

上布田村のやまふつ〜け村の年割ハナチありハナチと
しつもの今日と氣もよけれハナチ屋胸ハナチひく又ハナチ
をゆく布多ハナチ那ハナチの社ハナチまうてぬりハナチ六月ハナチありハナチ
を男ハナチもむハナチぐれハナチ社ハナチのうハナチ旅ハナチ〜
う〜せハナチ籠ハナチ〜ものハナチまでハナチおハナチ〜社ハナチの〜
衣服ハナチ〜と〜
并ハナチ〜とハナチ〜
著ハナチ〜田ハナチ原ハナチ〜
しつハナチ〜名ハナチ〜
里ハナチ〜有ハナチ〜

名録ハナチ〜虎ハナチ拍ハナチ那ハナチ社ハナチ〜
い〜〜
やハナチ〜
海ハナチ〜
祥ハナチ天ハナチのハナチ社ハナチ〜
ありハナチ〜
洞ハナチ〜
奉ハナチ獻ハナチ備ハナチ銅ハナチ燈ハナチ籠ハナチ二ハナチ基ハナチ
武ハナチ別ハナチ多ハナチ麻ハナチ郡ハナチ淳ハナチ岳ハナチ山ハナチ
慈ハナチ惠ハナチ大ハナチ師ハナチ庵ハナチ前ハナチ
前任ハナチ當ハナチ山ハナチ
六ハナチ十ハナチ三ハナチ世ハナチ現ハナチ住ハナチ
十ハナチ住ハナチ心ハナチ院ハナチ

布多天神
主日留天神
深大寺

享保六年七月三日

兼東睿見明

院九世沙門

覚眞慧暎

謹建

師是皇女池ありて劍三あり女人と傳ゆものと
林守の割れあり池の上の山は鐘橋ありと永和二年八月
十五日といふ文字と見え其ゆれ文字も志づらんといふ
しるしありていふ^{傳云是地年}かきく富のふとらん
里にありていふ^{り出せる}いふとらんといふとらん
ことと申せりいふ^{り出せる}いふとらんといふとらん

室物と申すいふとらん^{傳云是地年}慶安二年と傳ゆものと
縁起一卷享保七年十月十日の参取の中にも
申すといふとらん^{傳云是地年}後二巻^{後一巻}を
假名の詞のたむの古名の又いふとらんといふとらん
をりもといふとらんといふとらんといふとらん
といふとらんといふとらんといふとらんといふとらん
といふとらんといふとらんといふとらんといふとらん
といふとらんといふとらんといふとらんといふとらん

武藏國多摩郡浮岳山昌樂院深大寺ハモリ
今日ハ穰師あり名モ有也

佃村

といふ年此山よりして多獸となり水のそとを徳を
業といふあるやんよとあきか来りて事とある信を鬼
とらふは妻夫の殺生をいふあつらひく存殺す所の
ものからこれの代に父母をもやあへん子孫をやあへん
かあつて殺生をやあへんといふ事そのらんをいひて
積徳をなむつゆに一人の娘をもちていらさういつき
一は福海といふ童子事しては娘は志のい趣ひ一は
父母大はかりしては娘はもきそのらんをいひて
こ名をききよの密通といふよあきと事とありて娘
を地の中にあはめて人のあらう一は福満といふ一

去年三蔵液その時流神門よりして佛ををせり
は海妙とありてあひて川をりて一むひ一ものを
あひて一心を考へられは一の龜ありて福満といふ甲
のつて徳をいふ娘をありてなう又母のふ志後
をいふく知るとの娘成福満といふありて一の男子を
もちり父母の殺びようてあきと満功上人といふ
天平五癸酉年此地に一字を建てる寺とありて
妙といふあり又島の中は辨賊天と吉祥天女と成
まつりて龜鶴辨天といふ又一佛を刻まんといふ
とこの形をいふらび時を新にけり画像の身をもを

うつしてその像を刻まんとす。七月七日五川の
流を並木を以てて業師三郎を刻む。ついで比つら
中野つらつらぬ。安直の時、天平勝寶二庚寅年
正月十七日寅戌寅月寅日寅刻あり。甲子七代廢
帝の時額を賜つて、浮岳山深大寺といつたその妻
の名の虎をまのすめ。拍耽村の名よりして虎拍神
社あり。又業師の像は虎拍山祇園寺にあり。天台
大寺。妻虎の業師佛の化身あり。福海童子六多聞
天の化身あり。これ縁あり。ともども、陰徳の念
よりして仏のたんにして、その方便とせん。つら

は、やあ、らん、謙斎の武士の、世寺は二王門のまをた
あまびの、が、忽致して、んまひまき、二王の春
あ、つら、二王の唇、まの、あ、つら、武士の、は、い、つ、で
堂を、彼、却、その、こ、ま、を、埋、め、を、仁、と、像、と、り、よ
と、ま、つ、ら、代、法、如、天、皇、貞、觀、年、中、武、臣、國、司、藏
宗、正、殲、遂、の、時、出、つ、西、塔、の、開、祖、善、亮、如、尚、書、卿、と、て
あ、水、を、行、も、和、尚、南、岳、の、國、分、寺、と、り、つ、ら、虚、空
よ、む、つ、ひ、つ、石、勒、の、利、劍、を、持、と、り、つ、ら、高、山、の、ろ、と
あ、り、ら、あ、れ、を、創、立、る、と、り、つ、運、川、と、り、つ、ら、川、を、あ、り、奉
宗、中、講、を、依、つ、て、後、深、大、寺、七、材、を、賜、り、法、相、高、山、

轉じて台念とある其後野火の災ありて其
失りて世回る谷庄吉良の伊太ふく信にて海
津と管に阪平伊安の刀一振を寄附し長四尺あり
刀あり中より出くも
こむつきく甚古し志願む聖武帝廢帝延
和帝の御勅形と尙代とありて津朱市みす
守備ふ入の庄判物と頂戴すといふ 略取意

又此寺ハ谷保村天満宮の別當安樂寺に本寺あり
故に伊太の付おれ寺にあり原教後并宗又飛井六
部伊太の書寫せしと云ふ大般若經四卷桐の巻
ししてあり四卷こととのと云ふ太申と云ふもの室曆十

二年癸未のしに修補してしおし新に納めし
てしるものす切帝其帝して其村の仙谷山寺福
寺とてしるものしるるるるるるるるるるるるるる
卷舒れ方あり一卷くの奥書をみるにや
太申りしおしし經ハ老ありてしるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
老の人の名ありしものしるるるるるるるるるるる
太申りし市井の俗よりして虚名をうのしるるるるる
あり其の流名都を交りて名をうるるるるるるるる
せしを申し其の流名の太申極れ其の比の人

谷保邑安樂寺

の笑種ありきうして是れつゝあだりくも申され
の心あやそ有御舟並ふの名あるをさうりてははの
急りひききうるひれありしきやうもそれとてを
とせしもさうぶし音席音席観海先生も詩とて
りあは先生先生の寄大申有あり見女知名四十春厭
看花柳惹紅塵未尋雲漢乘槎跡又学成都賣卜人
この物さうて人のありしとて又津戸三郎蒼
原為守樂業師の像ありつゝある厨子のくちも業師
佛并十二神をさあをさうり所考をさうり刻し像あり
細密ありし目と驚す奇物あり壺のまね彼岸とて

ほころひく山寺の志づらある事しゝるものか
寺社のものまきわ難皮田原志の古城あり友の方の
山原より山のまきわに神社ありこれハ四神地名録
まきわまき皮の天神まで社名帳の青渭の神社あり
まき皮野地名考にも多摩那柏の里源大とては観海
まき皮の提しりありありはまき皮三神の社あり
七八十年おきて鶴千團の言ありしとあり考らたこの
社古く青渭の神社ありしとありは光ありんれとありか
まき皮のまき皮の世まき皮のまき皮のまき皮のまき皮
あつらうありあつらうまき皮のまき皮のまき皮のまき皮

神田厚正撰

の神社ハ古のころあり虎柏山の業師いたるころあり
こゝに申さざらんとも神社にあり森の中の小
祠あり虎柏山の寺ありを傳ふるもありん
業師佛のまゝごんごんたの方の屋よりして業師
にしろ虎柏山といふ額あり祇園寺といふ寺あり
天台宗ありてせらるるまゝなまらしてや
かゝるぬ申の時をうらふ

○廿六の夜晴て風烈し終るに布田村ハすまらり
まありて富沢の元祖と大板御座首実見能とを
蓮光寺村と夕つゝあり蕎麦むぎ畑とす

赤樹園より驛馬に詫して酒を贈りしゆどの夜の
こたにあつたに家君といふありんを
おくれ

○廿七のつゝに越く形なつてこれに稚室の南の窓を
きるとれば一もとの辛夷の花をさかりをねより
東地集をむ辛夷宮の額かきありあつた
登つて天気風走つたあつた一昨日の
虎柏の神社にまゝごんごんやちの年より
及して申さるる敷町とたの方に一む
森ありく小祠ありこれ虎柏の神社あり大きき松

虎柏神社 同業師

二か社のおりあり武蔵北地名考に虎相神社多摩

郡佐津村の内あり覃按今 佐津村と云けありを相の里とす

覃按凡そ穴相江郷深大寺 縁起に相神村とあり古くは和の帝の時武蔵の

國司安守の領あり中畧虎相の郡の神名に

みよと虎相の神社疑ぐもあり古記曰虎相神

社幸田七十三東所祭大藏御祖神也崇峻天皇二年己

酉八月始祭事有之覃按古記 曰凡そに城山とあり

あり少きとありのなりを覃按知あり所に城の形

ありと古城と云に相皮田原西と云に武蔵國

司安守のすとのありと上松山松山の田原とせ

られし君とありしを我もとす末の松山原

超るむと云古を陣改に相皮とて名をとりし人

も今も湍池の記ありと地名考に相皮田原西の

るハ田原記に北條系代記ありと云に城の記の中を

ひきとく農家の庭とす深大寺のつらふあぬ湍池

辨天吉祥天の社と云にありと云に地の中は中多ありし

岸とのありし一本の松と云にありしけはし徳意松の

と云のありしと云にありし先小金井の記の候きとあり

きのありし南風と云に氣暖ありとありしと云に

し池の側は庵ありし是寺ありしと云に地のほとりと

と深砂王の社とて深砂大寺とて額ありさきの
安永六年丙申卯月日光御社系の所日光山のみ
とて深砂王の社あり一時の事なりとていふあり
も之をあまり口とせむしとて深砂大寺の
鐘樓の銘とてらんとせしが室町とていふとて
足るしとていふとていふとて彼岸橋の社
やとていふとていふとていふとていふとて
て鐘樓のものとていふとていふとていふとて
橋のものとていふとていふとていふとていふとて
上とのなりとていふとていふとていふとていふとて
鐘樓とていふとていふとていふとていふとて

かきつていふとていふとていふとていふとていふとて

武藏國多摩郡深大寺

奉治鑄槌鐘長四尺二寸
口二尺三寸

右伏以當山蒲牢闢基以來革更其教不一或雖
冶鑄有破裂而無声或雖討得有薄畧而不鳴爰
緇素教輩競勳力廼命鳧氏遂鑄鴻鐘當知三寶垂
感諸天降臨仰願皇風永煽佛日弥明伽藍鎮
靜法輪常轉更乞諸檀施主二世善願一切成就仍昭銘
功德其辭曰

川鐘銘

寺号深大

山名浮岳

新鑄鳧鐘

声形卓萃

百千万劫

定期渺邈

驚起塵夢

消除煩濁

滅罪生善

令人正覺

永和二年丙辰八月十五日大工山城守宗光

大行事院主法印権少僧都弁運

別當前大僧正法印大和尚位守慧

多字の初ごころありて塵らちをひつからじと
しゆらうもぬのまきと鐘樓のまきらうりしきあら

えんとて背ごめありてあきあきとて鐘の口
しゆらうもぬのまきと鐘樓のまきらうり
て鐘樓のまきと鐘樓のまきらうりしきあら
のまきらうりしきと鐘樓のまきらうりしきあら
青波の社つらつと軍人ごまのたの方のゆらとのか
ゆらとのかと鐘樓のまきと鐘樓のまきらうりしきあら
しゆらうもぬのまきと鐘樓のまきらうりしきあら
大きあらあり武家社地名考より慶郡柏の里深大寺
の境内に青溜の境とまきと鐘樓のまきらうりしきあら
七八十年あきて千団の古木ありしとあり考ふる也

提

この社古く青淵の神社ありて一余り並観てもある一社号
もかのついでに流石せうやう此を字してて神の谷戸
とらうと葉月のものいり板をりうと岨の方ある標あり
圍ニよはせしる海の方の門あり東は山ありあり
林野の中をきけり上布田村ある方あり碑のちも
てある寺にり右は流るる堂あり鬼子母神をまつた
ア中堂の麓やぶ水く霧りうの音をききぬべし
惺曇山蓮慶寺といひ日蓮宗の寺あり鐘の銘は室永
四年十の廿日實とあり池上末寺といひ宿よかへり
まいのあくまへり新石の窓は筆とては

○廿八の日のうらみのき己の町をうらやりにたをれり
午の阿むりうまへりてけ家の背と出れむ幸夫の
花さうらあがかりちのまきこりけりひろき畑をとり
を山橋の花とありてまゝの松の母をゆきく少流の
葉楊をりて河多のいぞ又西川の葉楊をりて香村
のんちをりてなあをささく少流あり板楊をりて
て山ありて古松老杉枝をまつて海山送谷の中
ありやうい山をよもきく門ありあれさきよまき
仙谷山末福寺あり庵の梅りちりて境ありて
梅りて中をきけりふやうて海ありてりて

五
主
青
福
寺

きーがかくそくしーふき梅をうしりし年あ千
あゆり一ッふりしそふ花をき近し
清和の石鉤とくもの嘉慶八年癸亥の夏其年か之梅は
ちりぞり清素堂文集遠梅居士の傳あり愛梅遠望
尤多致与性合故以為号とありそ性梅を愛する
る幸梅の梅もつし今りしそ遠梅と號し
此月花のあゆめをすすまじし思しり海路は小金井
橋より下小金井村上山金井村をきとて山路あり西
國多村た府中大山尾た是政道とりある表とて
府中たともたの方にきくこの山の人見梅あり

云新宿のあゆめは山番場宿鎌倉志来かものとんこれり
申の時をうしりし小金井橋よりけりて一里十二
町

○二月節の天氣一番場宿をいへは政村の橋を
けりし押立新田よりし同なるすめ孝子長あゆが
孫のあゆしをいひ此は去しけりし一巻とて
まぬ証文の位牌をいひし法号をうしりす

寶曆十一年己年

見峰覺性居士

五月十有六日

押立新田孝子長五郎

○この寺をめぐり日暮あり今も節候あり農夫の肩
と息りしめんを同やどりよとあり訪つくりはの心
まき水くし年ハ寛延二年己巳三月より辛亥の日あり
こころ支平のうらびめくきまに亥亥の目よりあはれ
後者も相あそび祝ひぬ

○四つをくまりにく少雨ありまふの古き村のやどりを
彌田村ふりてく古き寺あり東覚山地蔵寺吉祥
院より今存ありの古き瓦をわら水はけ寺れ瓦
あり寺よりくまに南時く存ありく及心の
ものありありあれを編起をかきまのふりてく

武州多摩郡世田谷領鎌田村東覚山地蔵寺
吉祥院略縁起

本尊地藏菩薩 御長一尺七寸 行基菩薩御作

不動明王 良辯上人御作

印子聖天 弘法大師御作

日輪弘法大師繪像 同 御自作

七観音繪像 興教大師御筆

東覚山地蔵院ハ仁王四王代聖成て王の御宇天

年十二^{丙辰}辰年行基菩薩の開基あり其以多摩郡

彌田のふりてくありの古きありてくあり

地藏寺

あぢと極め小存の地あるをきりかしのそくちり女別
一 醫原を建まの大地を在りは同は泰氏の何某と
しつる名あるをきりかしのそくちり女別
かゝ田園を寄附しつるを結舎僧坊に託す成解
傳り永く地名を梵梵のそくちりかしのそくちり女別
をその地の地名とす其後星よおぬ百年を強く
火災ありて堂舎僧坊一宇もなかり焼失すむ悲哉附の
住僧あるを靈佛に乞ふに感原所ありし志前後於前
安後何事といふも門ありしをなかり焼失すむ悲哉附の
内より光り輝きしつるを海更闇夜は月のとくありき

てまうしつるを尚寺の印を地を菩薩并佛意く出
現ましは安んは院を告りし住僧奇異のそく
とありしを立起しつるを靈佛を念ゆしつるを住
侶より寄附僧侶仰しつるを僅のそくを強ひ安んは
安んは強ひしつるを是住僧の強ひしつるを滑りか
強ひし百有餘年を強ひしつるを田の里に川を何某といふ者
の妻安んは強ひしつるを運歩起しつるを海の奇瑞ありて易
産せしつるを因茲信敬のそくを強ひしつるを田
園を寄附しつるを再造まの功を成就せしつるを低氏の族
群を強ひしつるを悲哉建武二乙亥八月十五日住僧

單掛川景
落城天正十
八年己亥
解文祿謀
死

及退轉る年久しうれ本尊ハ少くの家を結ひ
安んじたり其後世田谷吉良の御所を測の宗規と爲り
法以金銀伐木其外幡蓋花幔ふと以寄附建立し安んじ
靈現もあつた時、祿福の以相お小田原小田原城
幕りしるより一同落城せしむ依りて縁の寺とあり
建立の且形もかく御香花も多しあつて信敬御依の
業も爲りしるより一志し大徳代安若の相言出む
あつた也

日輪弘法大師

同御自筆

はら嶮城帝王八宗瑞御歌

七観音繪像

興教大師御筆

往古吉祥院ハ御宮所不化和宮所末寺あり依り

久安四己辰中夏より仁和寺御宮

覺法法親王依り礼御下向刻初秋の以して吉祥

院ハ宿坊其節付方幅其外不を御寄附あり

一子安地系菩薩 御長きより七寸立像 御其菩薩御化

是八世田谷吉良ハ御所勝國の形也

印子聖天

弘法大師御作

是ハ院副元師平春時戒名觀阿御行禱り也

單掛川景
四成辰也
近衛院御
宇年号

名動内王

良辨上人所作

形当作刊

是の形ハ、少補源為光形不_レ同也
以上古縁起書板之の_レ教百年來経経女_レ書紙也
其形類見分_レ書形也
堂子の_レり_レ地_レ多_レ并_レ動_レ内_レ王_レの_レ像_レを_レ好_レ弘_レ法_レ大_レ
師_レ自_レ孝_レの_レ画像_レ大_レ師_レの_レ比_レよ_レ日_レ輪_レあり_レ白_レく_レま_レ元_レと_レよ_レ
合_レ泥_レま_レく_レ大_レ師_レの_レ類_レあり_レ其_レ字_レ例_レの_レ奇_レ字_レに_レく_レよ_レま_レる_レ
り_レか_レく_レう_レま_レ其_レこ_レご_レう_レを_レお_レか_レら_レた_レま_レあ_レそ_レく

七
糸
綵
花
綵
花
綵
花

中
九
練
綵
八
綵
納

白蛇三條ノ
形ノ如シ

又七観音の画像ハ、よ_レま_レテ_レの_レ天_レ人_レあり_レて_レま_レり_レに_レ一_レ圓_レ
を_レ画_レき_レて_レ中_レに_レ七_レ観_レ音_レを_レあ_レら_レく_レ中_レ央_レの_レ像_レハ_レ臨_レ陀_レの_レま_レり_レ
其_レり_レは_レ尖_レの_レよ_レま_レ圓_レ形_レあり_レて_レ左_レ右_レに_レ菩_レ薩_レの_レこ_レと_レま_レり_レ也_レ
こ_レら_レり_レあり_レて_レハ_レむ_レら_レひ_レく_レた_レの_レ方_レに_レま_レ圓_レの_レ形_レあり_レて_レ中_レに_レ
愛_レ摩_レ明_レま_レり_レ其_レ像_レ自_レ牛_レの_レま_レり_レた_レの_レ方_レに_レ三_レ角_レの_レ形

非実方
職人
シユニツ
元ト云



ありて中ヲ不動明王ありて此のままにせむ志有ひつ在
とらふものこころねも古くもえく彩あつてもこまやうな光え
しりて観音のほりなり 又清浄殿とらる額ありしが是ハ
先の住持の江戸よりまを来りしふど堂守のものうらなり
らふより大森村徳田村と入すしりし村の住居なりしを
地蔵とつらまらうとえり 大森村 徳田村 大森村 徳田村 大森村 徳田村
田村とまらう二子のつらし 大森村 徳田村 大森村 徳田村 大森村 徳田村
山の方村をすくたの方に正福寺 宗言 とらふ寺のつらふ
偃し たあま 船着新田の末廣松は似くやあふり
白雲明神の社とまらう 大森村 徳田村 大森村 徳田村 大森村 徳田村 少松村の松山の

つらふ 二反 桶 昔はとまらう西側寺のあふり 是の山 大森村 徳田村
鱒のつらふ 之を けふの里に東平ふらふ家といふ 去年の十月十日
らふより上丸村をすくし中丸をすく 去年の十月十日 大森村 徳田村
の社あり別あり 大森村 徳田村 大森村 徳田村 大森村 徳田村 縁起とらるる 大森村 徳田村 字は左
のつらふ

武物橋那稻毛領中丸子村羽黒大権現縁記

抑後をの國て正年中に奉勸清海大権現と号し
一字の所官有也地ハ河内某師記者の御化身也其
菩薩所作也又生國ハ合は美松の者名ハ少松と号
とめて道年馬と仕り江戸よりすんぐ年久俄中丸の

小松邑西明寺 中丸子御里

とてしめしむる事なれば

一 延應四年己未正月十一日の按ずる宮の別は雄も羽鳥
大権現廿斗の御宿と云ふ。此所を浮田。我ハ是はま
の権現あり汝一命をわけし祈り官業をあらと念んと
合々の御事とのべ一粒の御業口の肉へりと結くを立
すちふけりも是并古自由女成るる齒三斗に夜を
おれは遠すの志やうのごとくして代さびし始れ
御事なぬこ汝が祖又馬の事をあわしと云ふよういざを
まあるし御神らうと云ふ直あうと七八所四方ハさあう
日中のようにもあり神らうとせぬ。此海邊うらうた

お踏六
書

ひきすつた御宿をおしよりとれ。近所の古川より
氷をこぎこき氷をあひは所神前を侍しお宿十二日の
お宿六古き踏と云ふ。まきまもまをりて思ひあはし
口承の人まは由さうまきは彼の海海うを伝とんま伝
る解命してそ伝汝湯花と云へげまねとく。汝神前
の秘ぎみこを海湯花をいして。れバ種々の御託直あう
あり。そ耐氏子にや伝たう。若生の因果成た御神力
のこをあり。汝湯のあまうと。此海はあひんごで腰を立
し。ちい大う。まを此湯釜に入彼の海海はあひせむこ
おまうらまは御湯のあつと。御神力とていざ。お宿あり

朝鮮人の額をこらふ

乙未孟冬

羽 大権現

黒 朝鮮國電報

とある御起しよりうねを乙未ハ曆元年あり

中丸子村の里正七九海づりものとて庭より八重松の本

ニ本存とさうりあり

○ありさるるなり船中丸子村をゆく上丸子村の里を

山向村とさうりて田中山姥光寺中儀院といふ寺あり

門を入るとれをたす一の碑あり冠帯老人田中丘隅の

墓あり諸古札を写してこれハ世に在るの人

酒匂川の碑と建一人之所著の書は民間省

要といふものありと云れ尋ねて南河原村物内村が

川橋村といふ万年の奥といふ稲荷新田といれを而

ふりもなきありと稲荷の碑をこらふとぬ日様師町

の里正居ありやどらにつくねるを湧水橋を酒

橋と携つくとひまきや

○ふ日空をけりりり六母君の月忌あるを流のつらふ志

せえと次の日にいひ出さるも罪あり一問やどら

とま水里

山向色み光寺 田中丘隅墓

三月廿一日 雪翁月盛居士

同(背)面

武列に戸部掾紀伊國を極井又末三日月御夢示之乃大指
象大師所筆以名号法名雪翁月盛居士人深愚等為信者
かゝるごとく二行の彫れりいふも申の時をかりに
阪丹のうらぐもよめやうたかたりぬ
けひありたこのまゝ龍王院におきむ。而の金生山
辨財天の縁起をまんごを乞ふるが如く二巻を
もち来きり其文たのみ

金生山辨財天縁起

抑此

辨財天之尊像者弘法大師之權作也。有故余家傳之
久矣。構神座於家内。而平日禮拜之。閑説

不如當作
加之
ニカクミテラカ

辨天之功德者。福智威勢。今世後世。二世悉地自在。慈
悲之妙用也。故信仰之尊崇之。有年于茲也。不如教家
靈驗不可枚舉也。元禄癸未年仲冬廿二日之夜。江府大
地震。堂社民屋無不破壞。余居宅亦及。傾敗屋梁碎落。
于辨天之神座。雖厨子碎如意飛。而尊像。聊以無恙。且
家内之教人。亦得九死。于一生。各無恙。是偏非尊像之
擁護乎。慈悲之妙用。銘肝刻心。恭敬尊崇。日就月將也。

初田弁天

偶有客語余曰武列日原山者弘法大師開基之地也
山中有大日靈水、中一寶珠涌出而隨于玉川之流
留于羽田村之邊而水中有光晝夜不止里人奇之以
立祠而祭之則同國荏原郡六鄉領羽田村金生要嶋
玉川之

辨財天是也恭惟

辨天者元龍宮城之主也固有二世諸佛轉法輪利
生化導之功德也故四王天三十二將之隨一而退
治魔軍守護佛法故有修學勤行之輩則授與福德
智也、沮神德之大又如此矣金生山之為靈區也從

來久矣最農夫漁父多住于此亦久矣其東則滄海
漫、有旭日掛房總之山其南則玉川混、有清流
映富峰之雪又豆別相別之山川相繆映帶左右自
玉川望武列田野曠其盈視川澤盱其駭矚其西則
隔於海老取川有東海之馭路征人行馬往來絡繹
其北則筑波山峨、飛而行雲氣象万千其中則神
宮有仙其植物則老松古柏修竹显尊至若沙鷗錦
鱗珍禽奇獸充牣而在焉誠辨天之靈島也嗚呼靈
島如何有此地震而及此荒敗乎別當海峯見堂舍
傾側漁家圮毀欲構復之而憂力不足也于此有縣

吏海老名重云者為人廉直而以仁慈撫育下民常尊敬
佛神起群重云至此而見靈島之荒撤歎息謂此嶋之
衰者民心之滅也於是欲專務修營之勸海峯及檀越
曰敬神所以信佛也信佛所以修寺也修寺所以仰嶋
也吾今歎靈島之荒敗欲構復之然大厦將傾豈一木所
支哉汝等與吾勦力于衆皆悅而同之又海峯一夜夢
一老翁衣冠甚偉告峯曰金生山要島之鎮守以宝珠
稱辨天也武列江府藤原姓有馬純政家有
辨財天之尊像弘法大師之作也靈驗異他汝宜早乞此
尊像而勸請此地安置內陣尊像與宝珠相應則

神德益新也於是懇祈於天下太平國土豐饒万民快
樂則此島亦如旧可成就焉覺而奇之明日語同侶
僧曰吾雖未知有有馬純政者任靈夢行江府而乞尊
像豈不敢許之哉同侶曰回國修行之沙門有祖休祖
禪苦岩者皆嘗出入純政之家純政亦常感彼苦行
屢慰其勞也因三僧而請見純政可乎海峯以為然矣
峯一日飛錫扣余函寂以告靈夢之始末余聞之惟靈
夢之奇且感神意之忝而自謂嘗聞上世龜山帝文永
九年有僧禪朝者應武列太守平友時之恩偶領伊夜
比古封戶一旦雖至此而猶憚神威不專領之一夜夢天

人長身衣冠甚偉告朝曰我是伊夜比古大明神也待爾
久矣宜早為我修三密旨一乘法翌日朝聚諸神人語之
乃入而修法又夢神告曰山中有一池是我所棲也爾宜
就池側建堂宇覺而益奇之往見北谷果有池水愈信
神言之不浪遂構一院置十二僧口配十二神將爾來
不絕云以是聞彼則雖世異事異神之入夢古今一轍
也若為妄之而不崇之則神福止吾一人而已又為真
之而崇之則神福施天下万民而其功德及物也天長
地久綿無絕期乎何敢為一人惜之哉仍任于別當
龍王院海峯之所乞而便家臣堀山孝良警衛於尊像

以奉安置于金生山要嶋之內陣者也于時宝永八年
辛卯初夏吉旦

藤原姓有馬純政謹書

純政

臨濟正宗
第三十四世

印

生
生
水

正德三年

友

大龍寺

出

釋香園

大龍主人

武村莊原郡六鄉領羽田村玉川至生山要島
辨才天祠記

按舊記為祠所奉辨才天像乃大師空海
所彫刻也昔淳和天皇七年癸亥庚戌木
卯東遊之役卜以吉壤親中安置者多歷年即有

巡國禱龍海深信以像之靈聲誠勤修一於夢
了女告曰從汝沿流而下江海之間有如意寶
珠為你結緣是以寶珠乃沂河源三十餘里有
日原山麓聖胎支部大日靈水中涌出者而
浸沒歲久矣今故你當祭祀為鎮守神以宮海光
名大明神可也龍海夢醒驚去交集遂依教而
尋則果到下流河水一面度為金色河中出現
所示寶珠而光如炬赫龍海生龍曹之想信心
渴仰創建一字安置寶珠名名山曰威光寺為
龍王精脩靡懈自此已往那民崇奉為至生

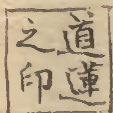
山如靈寶珠王辨才天鎮守神宮浦老名大明神宮云既而靈驗日新人踊蟬聯及建武兵紀盜賊侵掠宮殿破壞華表顛倒星霜復久為風霾山嵐之所侵蝕僧們僅茸草屋移置焉像見閔苦不感傷而已以有高橋氏名亨云者自幼歸心天女多積歲月元祿己巳子守己夜而假寐次夢出辰己方隅眼前優然現出岩山因生奇異之想試為攀躋則山頂有小池之中有奇岩之上有一白蛇之盤屈者蛇後有巨光重云夢念寧之殞命必欲親到窮究光以

所出現靈寶一其心忽伸右足越跨岩上閉眼忽見其光中有一眉之而十五童子侍列左右以及浦老名神明之宮當南方河水湯之東如海波漫之勝感喜涕泗交頤時有一光翁出于左邊告曰看你脚下有白蛇急之可也步至云谷以所志為證然則天女白蛇為何狀形不可恐懼善為瞻禮言畢不見後復已於夢過浦邊曠野有小神祠殿殿破壞祠後有塊石如龍神之屈伏問父老則以乃天女奧院也夢中疑訝既覺翌日因之幹出府跡以事石

形彷彿之、總抄布施之村、其祠所藏之
盤銘石而正符合時、昔之夢、其以異也
由是考工造之、其後以石細于像腹
欲討一勝地、永鎮置之、不期寶永丙戌九月
到此、山川隨處、空生山靈、像寶珠之地、昔
亦夢胸、右不爽、問之鄉民、古之神異不一而
足、因寺新像安置、合觀室之前、使人瞻禮、卒
於真造之意、以地振古、雖屬名藍、因近海邊
為風波所吞、輒成荒廢、此築成基址、漸經年
月、區遂其碩、因乞近里同志相謀、夏式之成、當

白公廳置民居耕葦原、以復舊觀、則吾願既
滿、衆望亦足、豈非時緣之有待、而將成就、木
師堂、海岳初權、應之、中願、予是重之、所希
異也、重之與同志、將前後記二道、求其為訂
正、予讀其文中、出字記夢、而以困字傳會、去
予按假字、鋪叙之意、但換作其字、不敢移易
所自、中色以卦、東請之、尔昔正正、二年、某
以癸巳夏四月、任武之品川、瑞龍山大就、禱寺
第一代嗣祖、沙門香圓、與書于

蒲帚山房授



高橋氏重云士

香國祿師の記す。初と有る氏の記す。初と今社改
し出す所の能名縁起と小異同あり信ハものつて伝を
傳ふ録ハものつて縁を傳ふ傳字の誤ハ異ありとて是を祿
徳の是ハ同ハかどぐー今年己巳とて吾生ハ一十年
實延二年己巳の十月ニリと云ふあり九己巳とあるは
今宵よりして此縁起とあるは値遇の縁起と云ふは
いふつて香國祿師此書に記すにうらうらと云ふは
○九己巳をねえ風や起きて存ある難ハ難ハ村々やん
とせしむるさうありてあつたに猶新舊同名と云ふ

うらたやと水り風をけく塵をあく付村の事
四甲多信ハ不慮氏 此も此のうらうら 名は甲多信の孫
あり此家ある板中の事記とありはくまらつて酒のこく
うらぬ

○十日と氣くつてま出く常葉がやどりと云ふは
むうハ家をつげく度よつき山あり池あり池の傍
こも戸の字石可成とてれとてま有ハ家居も
狭くくむうの傍を居てしわいふ知らうて後
のこのらまう 家ま古き布袋の本儀あり又我を居り
まの欄のすくくはりおるこのわり結構とてま

出づる額ハ船解人のまゝ又板あり守口棟意若犯如是
 行者多返世者ハ偶酬求石液氏某光曉月本とあり
 昔某川御多あり昔某川 某某と云
 ありて一昔某と云
 古事本が家さつて付名ものといふ山田系山系の臣りま
 山田系山城の故地と板あり一後池と云とあり付不
 になつてと云山年ク一と云水鳥記と云一鹿原の子孫と
 してその日蜂蛇の益と云と云傳ふ五平は蜂蛇龍の描金
蟹ハ者と又割札の板のすけつてをあるも其文と云
さつてむと云一板中ほと云一水鳥記の割れと云一山田系あり
 楊氏の書ありと主人ハ一りいふも其云のあとと云とありて

古きものところ

- | |
|---------|
| 定 |
| 一 院酒門 |
| 一 古く仰 |
| 一 上戸ハ果 |
| 一 於此内ホ |
| 一 ぶてお入院 |
| 一 会し連 |
| 一 丸酒と細 |

五割札と運深の糸とありと云
 一と云人々志あり某の以ハ碎
 客と来りてと云一と云別日
 一と云と云一と云と云一と云
 かつと云と云一のいふ庭に一本
 つ松の枝をさみたるあり板ハ
 牡丹の花を枯梗あり極あり植
 のめと云に古き松ありびとと云
 鳴のナリと云ナリ鶴雀の巢をさつてと云

- 一 下戸等
- 一 於此應茶
- 一 如別口論
- 一 露の枝
- 一 以應る亦
- 一 基を去
- 一 亦し加用
- 一 酒を割
- 一 以色の概共
- 右に示す如く

慶安 年
五月

川橋宿よりて万年の橋といふとわが市橋村より
 いそぎ紫式部守也の千年祝世音の事とて其の
 一つを以て寺の一心山寺念ふといふ浄土宗の事とて今ハ
 之を以て観音寺といふとて廟を以てててるに
 一も古き像あり立像 唐木のとて一も世の像光の金
 箔あがやうとて像の本地のごとく一も字朝の作
 土人云ふ山寺の江戸芝井町にすめる市人最花の娘を
 以ての像ありとて江戸芝井町の娘を
 一もあひくかありとて一もその菩提の事とて此像

後の御書
 御書二巻を
 以てて
 二巻に
 市橋邑歳之日

を寄附せしむすすらら其娘の肖像振袖きてる肖像
あり古き繪なるあが中日の法衣川七妻のうける曲せん
おらるひよこ縁をくちと少女の繪ことたなるうけられは
うら多ぬ終馬のうけつるに空永三歳四月日は戸
宇田川町佐友佐信同家井町方堀を寄附同町並友
とゆき寄附町とゆきを伊左の同町山台を平助敬白し
あり又二の女と画づける終馬は于時永永四方歳四
月下旬施主江戸芝井町祇為三郎多木とあり又樂繪
門彼の繪なるは蟬吟斎守英園とありと空永三娘年
正月十七日江戸山口孫三郎とあるをうづれもそひのも

あり此名の申のもの娘あるごとありれあり申より
各位の事あれを縁起もうらひとありといふ観音
堂のうらに浅草山とて少なきありあり隣地すを
うらありと月ごとの十七日とてありものあり
とらふお堂の額より一心山とあり昔大僧の書に書
ありりありのやどる市場村の百姓代金すあり隣子を
あつきを水田とらうにうらとこれくきのふのやどる
庭前をきくしおせきに似す子苗の比はありありと
ありおらありと雨をうらあり

○十一日おらありと風ありとて一層見揚をうらて睦

浅草山 蒼見杉

及をゆきて保陽とていふ作協といふ河原まきそ。枕中
といふものさきもよめたり。末吉村とていふ末吉
石叡の巻ハハづこ子あを問つたむらひのたのころあそ
てねあるおとらとてゆん寺尾村といふ保代あるあそ
たにねのありハ情交あり。南島村といふ大豆村といふに
た多印寺あり。日蓮。むらさき遠く人家をむらハ新
相村とていふひまのむらさきとていふも。今もまき
く少机村のまき定ルが家にもありぬ年の所を
あそぐ。あそぐ。むらさきとていふやどり。あこひひむらさ
のひまのむらさきとていふ。長福院を建立せり。 丁卯 文化四 二十

二番のる観音のほろりのふの露甘。とて里の童も
むらさきとていふ。あそぐ。あそぐ。あそぐ。あそぐ。あそぐ。
ありとていふ。泉谷寺の持ありて。存りて存りて。堂の額
勸善徳恵七十一歳梅峰書とあり。此村の泉谷寺
かりとていふ。惠頼上人の文とあり。泉谷寺碑集とていふ
してか。あそぐ。あそぐ。あそぐ。あそぐ。あそぐ。あそぐ。
あそぐ。あそぐ。あそぐ。あそぐ。あそぐ。あそぐ。
使の僧とていふ。あそぐ。あそぐ。あそぐ。あそぐ。あそぐ。あそぐ。
○十二日あべの雨とていふ。けねの塵とていふ。あそぐ。あそぐ。あそぐ。あそぐ。あそぐ。あそぐ。
あそぐ。あそぐ。あそぐ。あそぐ。あそぐ。あそぐ。

末吉不動 平泉寺 長福院

額をかく大森村といふ古橋を改めつる所のとら字
ありやと聞くと蛭沼古橋といふ所のところあり茶店といふ
所の首をみちの所あり倍ちかき健うして後の俗縁
の及りおとあふび又一幅のり愛松毎時礎人枝丁多首
文里あり日苦茶山とありたに古布種竹の社あり
又和牛敷の店ありそと合川木とあり御成門とあり新
とにほくくく板橋といふ内川橋といふ橋をさるれば大
森村あり町といふ田といふ家の茶店にさる屋の割と
くさるなりもとの所をかして古川村の茶店といふ
まのまうて一町中量の額をさるれば記さるべきなり

とら

奉寄附

瑠璃光如來

交泰院法印門

松原氏

陳元贊門 梅峯堂

又傳起り二月七日古川村のやどり一町に写しつるは
こゝに贅せし但傳起りびの四郡地名録も醫王山世
尊院安養寺とありと護名をこれに醫王山東光院安
養寺とあり傳起りも東光坊の名あり今夜の若ハ古
川村の里にさるなりとて二月八日風をげしき日
やどり一町にあり川橋宿の里にさるなり

古川橋宿

元四百年秋稔綿々と綿えず毎年四月一日と七月二
日の曉ハ軍馬廻くと音すふ音地あり是也河北白
村の稲産すまん唐子義貞の霊神の沙汰あり
終ふこと民人等が云傳り

圓始に能あつてあつて奈田若干跡あり朱垂を給ふ志
あつた慶長中位侶辨法印の代夜祀の是よりい資
財什物等とたまを奪ひとれ存す存直集
在り耐早勝古蹟尚不直り田村今の信田の
方字に記す元弘の早
勝の食邑ありて夜は居位に宅地の古社今少輩あり
早勝下世の後民倍旧恩の心あり里に藪志して守

即ちたまをり早勝の霊を祀り禿舎を管建し即
霊のまゝと崇め給ふ

粟生在る耐老良家

尚村程あり在り志良卒するの後子孫朋友の信を以て其
霊骨を埋め客よは後の家を築家のよき五福の塔を
建存に云行

不動明王を野方所正作あり霊顯あり

義貞侯弟守中あり尚刺威怒事にあらず義貞
侯入曾川のまに陣陣とせり耐のまに枕よま
福倉近治のりあり是より海邊直田の里に安

一書。初のふ動明王を伝へせよとの名ケ少し也。初書
成。此のふハ書附打元は。初の御運の御守也。是の
實運元年。少動明王の命。此の御守。永世長日。護摩秘
法。修り申ん。と。億兆。告ケ。化縁。を奉。其。微。志。者
國家。清平。武運。長久。五穀。を。熟。郷。民。安。住。を。祈。む。せ。む
と。云。

右の書。存の日記。を抄。羅。す。もの。あり。て。日記。ハ。延。享。三
寅。十一。月。中。丁。酉。の。災。より。く。ま。正。堂。方。丈。蜂。薙。鐘。樓。知
夏。寮。等。と。な。す。一。掃。鳥。有。し。那。り。年。ぬ。

別當明王山聖之勤密寺成就院顯住法印辨隆

謹識

○す。初。古。川。村。と。い。ふ。ハ。幡。場。村。の。ふ。の。お。せ。ま。と。い。ふ。系
村。古。市。場。村。を。い。ふ。み。ま。て。中。丸。子。村。と。い。ふ。り。果。正。七
なる。が。家。々。や。と。る。隣。の。農。夫。あ。あ。市。原。の。家。々。大。原。の。神
の。祭。と。て。敷。う。ち。箇。々。あり。て。巫。女。を。よ。び。て。神。樂。を。奏。す
ら。の。祭。の。先。祖。振。舞。を。志。願。と。す。ん。ハ。大。板。の。所。陣。打。孔
せ。し。もの。を。それ。を。神。と。ま。つ。て。あ。く。奏。す。と。い。ふ。家。々。傳。へ
て。武。器。も。多。う。う。り。て。う。ま。き。の。年。に。湯。洗。し。て。農。具。と。し
て。あ。り。あ。り。あ。り。て。今。ハ。刀。一。口。あ。り。の。と。書。し。る。もの。も
先。の。年。の。如。難。は。流。失。し。て。あ。り。と。い。ふ。もの。も。あ。り。と。い。ふ。

○十六日同しやどらんともありて加味山の方におうんと
せしは是より雨より身れをゆべん

○十七日おびの雨をぬくたり志るるをいし船の旨はあり
を案月としてやどりとせしは唐徳田村をこえゆく
すし農夫二人こきりてあそび一人馬遊をわ
てゆくとる。脛ハ膝すくまて泥まもぬ人なまて牛
馬たうるあそび。或ハ種とり。或ハ糞をみあはせし
穉穉の難難をさすずして素寒のすまのうら方なく
○是より加味山の麓より北に題目ありて石碑ありて南
山十四世日康とありて北頂龍山了源寺ありとれり

たち子曲折してのぼる坂を七曲といふ実ハ五寺のつ
のあたりにあそびし所ニツツあり大寺あり松生ひまどれり
近江まで六丁つに生ひ志ありしを初めとてさす
畑とせりまもる所のありてこれより幅をさるる石を
とら北の松村講中とあり此ありうら南ハ金川の
海東ハ出川の海東とせしはうらうらとせしは帆げの
うらうらとせしはうらうらとせしはうらうらとせしは
森の池止のつらありとて川橋の里人の後むし
田代金吾道灌せしは東の方の地を管むべき地を
とて今の水戸の城をつくらし故まの石をさるる

一 軍後物土
今川源氏流
とお遊せり
下りてを

頂竟山了源寺 七曲坂 加味山

いふ事はいふに、うんをたゞ鬼子母神のをあり主信する
て鬼をえんとし、あるは今の仮宿村とて、齋の
やうにせむせん、そのころに、腰かけの
の方と眺望の大きな松の齋の、
此山のうらた切通、といふ事あり、
ものあはかりて、軍正より、
つゝ里正を、
とて、何とあり、此の百年、
とありて、其後、
箱にそのもの、

ゆきぎら、
峯村、
弟、
○十八、
加藤山、
中九子村、
あつて、

見え

一 南加藤村山崎、大田道流の、
有、

後見の寺のりき田と彼山・宿とPのい

いづれも後の中へ後とより七くこらあしぬ遊あり
一 聖日南加藤村の里田田集り来りしなり
中ぬ子村の里田野山といふなりと谷へいふあり
ありまこと合川川のちり物志村末吉村の系より田
ありしと塘山といふ南加藤村の系より田属し
合川川の属しと他田のりきとともしと
と云ちありしと合川諸志村ありしと然野田相見ハ
もと北加藤村よりなる然野田の飛ありしと

云々も加藤村のうらに多見後ありしとありしと
こらま計といひしとありしとの子孫八百坪といふ
ものこと神皇の家のを畑ありしとありしと
は存り種をひめりしと享和のひる然野田
主計自證とありしとやに是なりとありしと又後見の
海よりありし南加藤村ありしとありしと山加藤山
源寺のおの山田のりきとありしとありしとありしと
後の中の後ありしとありしとありしとありしと
くちとくし又南加藤村田古き寺あり加藤山智光院
如來寺といふ浄土宗の寺と建武元年の開基あり

諸田然野田

と埋めよむの地をめぐりて芝と草をかのふりて片
とをゆく中一つのもをよむ

新碑共残破片々碎為塵聊及藁裡土長埋寂寞
濱 文化六年己巳暮春南畝とるまをよむ

あゝさやあとも海のむむ川の

Faint bleed-through text from the reverse side of the page.

ふれ六の己巳 (1869)

かのり候 驛まきしむ

活生のたのぶらう 峯村

やうらなま

送櫻子

文化七年庚午秋八月一授畢



